

■五所平之助 映画監督。田中絹代を大女優に育て、日本初のトーキー「マダムと女房」で脚光、引退後は俳句に邁進。

ごしょへいのすけ

教科書疑獄・1902＝ 東京の神田で、乾物問屋の子に生まれる。本名は五所平右衛門。

日露戦争終・1905＝ 3歳：

大逆事件判決1911＝ 9歳：

明治天皇没・1912＝10歳：

商人の教育を受けるが、劇作家を志し、俳句を愛し、_映画に狂い、

大暴落・・・1920＝18歳：

原敬首相暗殺1921＝19歳：

関東大震災・1923＝21歳： 慶応義塾商工を卒業、_父の友人の息子である島津保次郎の口添えもあって、
_松竹蒲田撮影所に入社。島津保次郎の助監督をへて、

治安維持法・1925＝23歳： *監督に昇進。原作・脚本も手がけた「南島の春」で監督デビュー。

日本時代始・1926＝24歳：「彼女」、

金融恐慌・・・1927＝25歳：「寂しき乱暴者」「からくり娘」、*田中絹代の出世作「恥しい夢」、

共産党事件・1928＝26歳：「村の花嫁」など、ユーモアあふれたそれでいて叙情性豊かな作品を次々と発表。

世界恐慌・・・1929＝27歳：「新女性鑑」「親父とその子」、

海軍軍縮条約1930＝28歳：「絹代物語」により、絹代ファンをいっきよに倍増させるなど、大女優として育て、97本の監督作品中23本にまで彼女が出演している

満州事変・・・1931＝29歳： *日本最初の本格的トーキー「マダムと女房」に起用され、一躍脚光を浴びる。

五一五事件・1932＝30歳：「天国に結ぶ恋」から、

国際連盟脱退1933＝31歳：川端康成の小説「伊豆の踊子」の最初の映画化(サイレント)、「十九の春」、

帝人疑獄事件1934＝32歳：山本有三原作の「生きとし生けるもの」においては社会派的側面を強く打ち出し、

芥川直木賞始1935＝33歳：「小市民映画」の佳作として知られる「人生のお荷物」、

二二六事件・1936＝34歳：「新道」、

日中戦争始・1937＝35歳：

健保+総動員 1938＝36歳：

大政翼賛会・1940＝38歳：「木石」、

日米開戦・・・1941＝39歳：_紫綬褒章。

・・・1942＝40歳：_戦時下、「新雪」が大ヒット。

敗戦・・・1945＝43歳：

新憲法施行・1947＝45歳：勲四等旭日小綬章。高見順の「焼跡の恋愛小説」を映画化した純愛メロドラマ「今ひとたびの」、

独立回復・・・1951＝49歳：「わかれ雲」、

TV放送始・・・1953＝51歳：作家の_椎名麟三「無邪気な人々」を映画化した名作「煙突の見える場所」では「新スタイルの笑い」を提供、

自衛隊発足・1954＝52歳：「愛と死の谷間」「鶏はふたたび鳴く」、

55年体制始・1955＝53歳：「たけくらべ」、

国連加盟・・・1956＝54歳：

なべ底不況・1957＝55歳：初のカラー作品「黄色いからす」。_ベストセラーとなった原田康子「挽歌」を映画化し大ヒット。

イヌトアノ・1958＝56歳：「蟻の街のマリア」、

安保闘争・・・1960＝58歳：「白い牙」、

タイタイ病始・1961＝59歳：「猟銃」、

大学紛争始・1965＝63歳：

いざなぎ景気1966＝64歳：「かあちゃんと11人の子ども」、

震ヶ関ビル・1968＝66歳：*「女と味噌汁」に至るまで、「庶民の実感」「日常生活の中の人間喜劇」を貫く。また、竹田人形座の協力によって作られた人形映画「明治はるあき」は本格的な人形映画として有名で、この映画で使用された、五所をかたどった人形をはじめ、遺品の一部は東京国立近代美術館フィルムセンターに寄贈されている。

石油ショック1973＝71歳：

角栄金脈辞任1974＝72歳：

_俳人としても知られており、(春燈)同人として「五所亭」という俳号で活躍、

成田衝突・・・1978＝76歳：回想記「わが青春」、

革新大敗北・1979＝77歳：句集「わが旅路」、

・・・1981＝79歳：_没した。

「生きる 五所平之助百句集」、